

BCJ-SAR ISO だより Vol.6



財団法人 日本建築センターシステム審査部
〒105-8438東京都港区虎ノ門3-2-2第30森ビル
☎ 03 - 3434 - 4537
FAX 03 - 3434 - 4560
ホームページ http://www.bcj.or.jp
E-メール sinsa@bcj.or.jp

我が社のISO(その6)

『ISO14001で得たこと』

私どもの会社は北陸の石川県金沢市の隣、かほく市というところで建設業を営んでいます。

私達が日本建築センターからISO9001の認証登録を戴いてから早4年。

その間にISO9001:2000年版の改訂やISO14001認証取得という過程を経て現在では在来のQMSにEMSを組み入れた統合マネジメントを採用しています。

*

ISO14001認証取得の話が出たのは石川県が2004年にその認証を取得するという情報を得た頃です。その頃はISO9001:2000年版の更新登録を受けたばかりで、以前の94年版よりも使いやすくなったと喜んでいた矢先でした。私達は「ああ・またか」という気持ちになってしまいましたが、社長が宣言してしまった以上どうしようもなく、重い腰をあげました。さっそく色々な文献を漁っているうちにOさんという方を見いだしました。先生が提唱されていたのは品質と環境を組み合わせた統合マネジメントです。主旨は将来双方の規格は必ず整合されていくので今のうちに一緒にしておいた方がいいという事と、環境は具体的な成果と事例が求められているので品質そのものの改善にもそれが波及して良い結果を生むとの事でした。そのご指導をお願いしたところ快諾して下さいました。

表 守活
株式会社 表組
石川県かほく市
TEL 076-283-1101 FAX 076-283-4501
E-mail somu@omotegumi.com

まず当社の営業活動の環境側面抽出から作業が始まりましたが、やはりこれは良いと実感いたしました。それは特定した環境側面に基づく目的目標の設定や施工行為による近隣住民への具体的な環境配慮は、むしろ我々が従来行ってきた事の肉付けのように感じられたからです。また、同時に設定した品質目標も見ると同時に具体性を帯びるようになり、全てがマネジメント方針の実現に向かって分かりやすい仕組みになっていきました。おかげで従業員それぞれが今の自分のおかれている立場をどのあたりに捉え、どう行動するかの把握が出来つつあるようです。以前と違い、目的目標が特定した環境側面の数だけ増え達成へのスケジュールまで決められましたが、かえってそれが私達に具体的なマネジメントの流れと運用への理解を助けてくれています。

**

設計については環境に貢献する項目をとりまとめました。最初はそれがコストアップになるとの先入観がありましたが実はそうでもありません。コンクリートを砕いた再生採石の使用、決まった予算の場合は新築よりも改修改築の提案、長寿命設計では材料と工法の工夫で予算を変えずに公庫や性能保証仕様のワンク アップも可能です。また、駐車計画も車の切返しの少ない方法で環境を考慮する事もでき、グリーン調達品は「あれっこれもそうだったのか。」といった具合でかな

り豊富に色々あります。
最近、顧客を交えたデザインレビューを行ったときコストアップにならない環境配慮設計で非常に喜ばれました。それで別の仕事を紹介して頂いた事があります。規格要求のなかには情報公開すべき部分もあるくらいですから、これからは当社のマネジメントシステムそのものをいろんな機会を捉えてお客様に知っていただければと思います。
とにかくISO活動は社員全てが動かなければ何もならないし、その行動が理解されているかどうかで雲泥の差があるようです。環境ISO14001は意外とそれに手をかしてくるかもしれません。なにぶん食わず嫌いは禁物です。

審査員の目(その9)

『環境側面』

本「ISOだより」が皆様のお手元に届く頃には、新しいJISQ14001:2004がお目見えしていることと思います。事前の情報で、どこがどう変わったかは、おおよそ分かっているが、その中で注目すべきは「4.3.1環境側面」ではないかと思う。要するに、「考えられる環境側面は、直接的影響であろうと間接的影響であろうと、すべからく上げよ。そして、その中から著しい環境側面を決めて、それが及ぼしている環境影響を改善せよ。」ということであろう。旧版(1996年版)の言いたいことの本質も、上述と変わるものではないと思うが、数年間の運用を通じて、取り上げられる環境側面の適切さ、妥当さなどで、色々と問題提起がなされたのではないかと思う。

*

戦後の日本経済復興の鍵は、製品の品質が「Made in Japan」として世界に認められたからである。それを支えたのが、日本に根付いたQCでありIEである。QCは「コストを上げないで品質を向上させる」、IEは「品質を落とさないでコストを削減する」を狙いとして、そこで取られたマネジメントシステムが、PDCAサイクルである。この時に、最も重要なことは、何を改善テーマ(P)にするかである、まずは、問題点を洗い出す。そのために、ブレインストーミングなどの手法を使う。次に、それらを評価して最も得られる改善効果の大きいものから潰して

株式会社 表組の概要
明治2年石川県にて仏閣の造営を専門に創業。
昭和43年法人組織に変更し現在に至る。

主な業務内容
建築物の設計・工事監理及び施工並びに土木構造物の施工



岩田 英夫

システム審査部登録審査員
CEAR登録主任審査員

いく。大きいものを潰せば、それまで下にいた問題点が浮上する。更に、それを潰すと言うことで、継続的改善が進むわけである。ここを間違えると機会損失を招くことになる。そのためには、統計的手法などを使うが、最終的には、総合的な技術的判断を加えて決定する。このやり方は、正に、ISO14001でも全く同じである。まずは、それが及ぼす環境影響の大小は気にしないで、考えられる全ての環境側面を探ることが肝要である。ここで勝負が決まると言っても過言ではない。抽出する人の経験知識、注意力、観察力などで左右されるかも知れない。即ち、環境側面の抽出に抜けが起こらないことを担保する手順の確立が肝要である。抽出した環境側面が万全であれば、後は、環境影響の大きいものを改善ターゲット(著しい環境側面)として順番に潰していけばよいことになる。

**

昨今の気象の異常は、おじいさん、おばあさんをして「生まれて初めて」と言わしめている。「窮鼠猫を噛む」という諺があるが、我々人類(猫)が、何時までも地球(鼠)を痛めつけていると、我慢強く耐えていた鼠とて猫に噛み付くと言うものである。最大の環境改善効果が得られる環境側面を狙い打ちする環境管理活動を期待したいものである。

審査員の目(その10)

『環境審査の現場から』

21世紀は環境の世紀ともいわれている。酸性雨、オゾン層の破壊、地球温暖化などの問題に対して、地球規模で取り組むことが、社会的にも要求されている。特に今夏は気温が40度を超える猛暑と、たび重なる台風の上陸(過去最多)で、被災地では復興に向けた工事を行なっている矢先に、また、台風に見舞われるという事態に陥り、まさに地球温暖化現象(異常気象)が現実のものとなってきた。加えて、新潟県中越地震の発生という2重、3重の試練が一気に日本に訪れた感がある。

*

ここで、今回の台風23号に関連した話題を提供したい。福岡にある某企業(以下「A社」という)の審査が10月21日~23日の3日間行われた。たまたま日本適合性認定協会(JAB)の認定審査員が立ち会う審査であった。BCJの審査員とJABの認定審査員は前日(20日)には東京、大阪、福山、福井など、様々な場所にいたが、夜のうちに現地入りしようと、ある者は航空機で、ある者は新幹線と試みたが台風23号の威力は絶大で、航空機は欠航が相次ぎ、また、新幹線も大幅にダイヤが乱れ、東京から13時間半もかかって満員すし詰めの中、やっと福岡についた認定審査員もいた。(ちなみに福岡到着は夜中の3時半であった)前日移動を断念せざるを得なかった残りの者も、朝4時起きをして満員の新幹線で現地入りを果たすなどして、21日の審査は2時間遅れで開始し、その後は順調に3日間の審査を無事終了した。

**

さて、この審査の中で印象に残ったのは、A社の廃棄物集積所を管理するおじさん(失礼ながらそう呼ばせていただくのがびったりの方である)のことである。A社の廃棄物集積所は、個々の現場でた廃棄物を集めてきて、集積所に一時保管し、量がたまると産業廃棄物収集運搬会社に連絡して、ある物はリサイクル工場に、また、ある物は処理場にと送られるのである。

飯田 喜一郎

システム審査部登録審査員
JRCA登録主任審査員
CEAR登録主任審査員

以下に審査員とのやりとりの一部を紹介する。「今回の台風ではどのような対応をされましたか?」「台風情報が届いたので、すぐに旗など風で飛びそうなものを取り外し、廃棄物にはネットを被せました。」「この集積所で日頃から心がけていることはありますか?」「周辺住民の方々との関係を良好にしておくことです。」「具体的には何かおやりになっていますか?」「毎週集積所の周囲にある溝を掃除しています」等々。

おじさんは「廃棄物処理法」そのものについては、よくわからなくても、マニフェストの管理や、台風の接近が予想される場合の手順などについてきちっと実行していた。(ISOでいうところの「緊急事態への準備及び対応」)また、溝掃除を積極的に実施するなど、周辺とのコミュニケーションも上手に図っていた。

おじさんの働きは、A社の環境リスク対応と、環境に配慮した企業活動を行なっていることによる社会的なイメージアップの両方に貢献しているなど感心させられた。

システム審査部からのお知らせ

ISO14001の取得を考慮される組織の皆様へ

ISO14001:1996は2004年11月15日に改正されISO14001:2004となりました。

また、JIS Q 14001:1996は12月27日に改正されJIS Q 14001:2004になりました。

これに伴い改正日から半年間は新旧規格の併存期間となり、新規申請組織の審査は新、旧どちらの規格でも、審査可能ですが、その後は新規格のみの審査となります。

審査に関するお問い合わせはシステム審査部環境審査課でお受けいたしますので、お気軽にご相談下さい。

なお、受審対象組織に関して一部新聞で誤解を招く報道があり、(財)日本適合性認定協会のホームページでその件についての見解がだされましたので、その部分を掲載いたします。

ISO14001改訂に伴う審査登録（認証）に関する不正確な情報について

2004年11月22日
財団法人日本適合性認定協会

1. 今回のISO14001改訂の趣旨

企業等がISO14001の審査登録（認証）を取得する際に、対象組織の一部を適用範囲とし、重要な環境側面を除外した形でシステムを構築し、あたかも組織のすべてが認証取得したかのようなアピールを防止するため、組織の中で環境マネジメントシステムを適用する範囲を明確にし、決定した範囲内の「活動、製品及びサービス」の全ての環境側面を考慮しなければならないということを要求事項として明確化したものです。

2. 下記の情報は、事実を伝えていませんので、注意して下さい。

- 1) 「改訂後は事業所ごとの認定ではなく、全事業所で規格への適合が求められる」改訂後も、ISO14001は認証の対象は、企業等の申請によるものであり、一事業所でも、全事業所でも構いません。
- 2) 「ISO14001は、企業活動の一部が一定の環境基準をクリアすれば認証を取得できる仕組み」
ISO14001の規格の要求事項を満たした環境マネジメントシステムを持ち、機能していることにより審査登録（認証）を受けることができます。
同規格の要求事項は、企業等の活動が環境に与える負荷を軽減するためのマネジメントシステムに関わるものであり、一定の環境基準のクリアというような、具体的な環境パフォーマンス自体についての要求事項はありません。
((財)日本適合性認定協会ホームページより)

財団法人 日本建築センターシステム審査部は財団法人 日本適合性認定協会より2004年12月8日付けにて下記の環境マネジメントシステム審査登録認定範囲の拡大が承認されました。

- 29卸売業、小売業、並びに自動車、オートバイ、個人所持品及び家財道具の修理業
31輸送、倉庫、通信
39その他社会的・個人的サービス

ISOセミナー・説明会開催のご案内

財団法人 日本建築センター情報事業部
主催の内部監査員研修（ISO9001）
の開催を下記の通り予定しております。

東 京 2月8日（火）～9日（水）

応募人員：各回20名（申込者の人数により、ご希望された日にちを変更させて戴く事もありますので、予めご了承ください。）

参加費用：50,000円（税込）

詳細は下記によりご確認ください。

<http://www.bcj.or.jp>

問い合わせ先：情報事業部 岡田

TEL 03-3432-0716

FAX 03-3434-7229

財団法人 日本建築センター（BCJ-SAR）
主催の建設及び設計事務所を対象とした
ISO9001/14001説明会（無料）
を下記の通り予定しております。

日時：平成17年1月31日午後1時半～
場所：富山県民会館 6階612号室

詳細は下記にお問い合わせ下さい。

システム審査部 石原、金谷、古守

TEL 03-3434-7188

FAX 03-3434-4560

編集後記

明けましておめでとうございます。
昨年はイラク問題、北朝鮮問題、地震災害等暗いニュースが多い1年でしたが、今年
は明るい話題で盛りだくさんの年であるよう期待したいものですね。

1年の計は元旦にありとお考えの方も多いかと思いますが、皆様は今年1年の素晴らしい目標などお持ちでしょうか？

当システム審査部は本年も、皆様のご納得いただける審査によって、皆様の業務に少しでもお役に立てるよう頑張りたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

品質マネジメントシステム新規登録組織紹介(2004年11月～2005年1月)

登録番号 (BCJ-QS)	登録組織名・事業所名	所在地	登録された品質マネジメントシステム
0683	有限会社 新光設備工業	山梨県甲府市	給排水・衛生・空調設備の設計、工事監理及び施工
0684	株式会社 日新厨房企画	山梨県中巨摩郡	業務用厨房設備の設計、施工
0685	東部産業株式会社 管理部、営業部、土木部、建築部、ISO安全環境管理室	福島県いわき市	土木構造物の施工並びに建築物の設計、工事監理及び施工
0686	有限会社 今針山工業	宮崎県小林市	土木構造物の施工
0687	株式会社 内山組	鹿児島県曽於郡	土木構造物の施工並びに建築物の設計、工事監理及び施工
0688	九州洋伸建設株式会社	福岡県福岡市	土木構造物の設計及び施工
0689	株式会社 吉沢工務所	山梨県北杜市	土木構造物の施工
0690	株式会社 丸美佐藤組	青森県青森市	土木構造物の施工
0691	株式会社 加藤建業	青森県東津軽郡	土木構造物の施工
0692	親和興業株式会社	神奈川県横浜市	上下水道工事及び舗装工事を含む土木構造物の施工
0693	株式会社 セレ ファクトリー	福岡県田川市	工業化住宅部材の製造並びに鋼材の加工及び防錆塗装
0694	福島建設株式会社	山形県東置賜郡	土木構造物の設計及び施工
0695	野辺建設株式会社	宮崎県串間市	土木構造物の施工及び管工事
0696	美加美興業株式会社	青森県青森市	土木構造物の施工
0697	株式会社 竹達建設	青森県十和田市	土木構造物、舗装及び建築物の施工
0698	株式会社 大森エンジニアリング	熊本県熊本市	測量業務、建設コンサルタント業務(公共下水道設計、都市・地方計画に伴う計画設計業務等)
0699	株式会社 日田プランニング	熊本県熊本市	土木工事に係る測量業務(用地測量を含む)、設計業務
0700	有限会社 新興測量設計	熊本県熊本市	土木工事に係る測量業務、設計業務、用地調査業務
0701	株式会社 浦田技術コンサルタント	熊本県熊本市	土木工事に係る測量業務、設計業務、調査業務
0702	有限会社 泰和建設	福岡県飯塚市	建築物及び土木構造物の施工
0703	群馬土建工業株式会社	群馬県高崎市	土木構造物並びに建築物の施工
0704	株式会社 佐藤組	青森県西津軽郡	土木構造物の施工

登録番号 (BCJ-QS)	登録組織名・事業所名	所在地	登録された品質マネジメントシステム
0705	株式会社 水口建設	青森県西津軽郡	土木構造物の施工
0706	株式会社 室橋組	東京都千代田区	建築物の設計、工事監理及び施工
0707	川村建設工業株式会社	青森県十和田市	土木構造物の施工並びに建築物の設計、工事監理及び施工
0708	株式会社 飯塚組	群馬県北群馬郡	土木構造物の施工
0709	株式会社 五戸組	青森県青森市	土木構造物の施工及び管工事
0710	有限会社 小川工業	青森県十和田市	土木構造物の施工並びに建築物の設計、工事監理及び施工
0711	今泉建設工業株式会社	青森県十和田市	土木構造物の施工
0712	株式会社 勝山建設	青森県十和田市	土木構造物の施工
0713	東奥重機建材株式会社	青森県十和田市	土木構造物の施工
0714	東洋建設株式会社	大阪府大阪市	建築物の設計、工事監理及び施工並びに不動産の賃貸及び管理
0715	道路サービス株式会社	大分県大分市	交通安全施設の設置及び土木構造物の施工
0716	アイワ産業株式会社	大分県大分市	交通安全施設の設置及び土木構造物の施工
0717	株式会社 国土社	青森県東津軽郡	土木構造物の施工
0718	大幸建設株式会社	宮崎県小林市	土木構造物の施工
0719	株式会社 佐藤工務店	島根県出雲市	建築物の設計及び施工
0720	株式会社 高久組	秋田県湯沢市	土木構造物の施工
0721	共同建設株式会社	東京都新宿区	建築物の設計、工事監理及び施工
0722	重松兄弟設備株式会社	愛媛県松山市	建築設備の設計及び施工並びにこれに付帯する業務（保守管理、修理工事）

環境マネジメントシステム新規登録組織紹介(2004年11月～2005年1月)

登録番号 (BCJ-EMS)	登録組織名・事業所名	所在地	登録された環境マネジメントシステム
0097	株式会社 織田興業	埼玉県八潮市	建築物及び土木構築物の設計・工事監理及び施工
0098	有限会社 齋藤商事	新潟県上越市	解体工事、中間処理及びコン石、チップ製品製造